

教科(科目)	音楽Ⅰ	単位数	2単位	学年(コース)	1学年（芸術選択）
使用教科書	教育芸術社『MOUSAⅠ』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ (1) 自ら考え、判断し、行動する力、生涯をとおして主体的に学び続ける人材を育成します。 (2) 他者や周囲を尊重し、多様な人々と協調して社会に貢献する力を持つ人材を育成します。 (3) 豊かな感性を備え、社会の一員としてのルールやマナーを大切にする人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ (1) 生涯を通じて学ぶために、基礎的・基本的な知識・技能の習得などの確かな学力の育成に重点をおき、全ての教科・科目において基礎学力の確実な定着を図ります。 (2) 地域と連携しながら、多様な職業や進路について学び体験する機会を設定し、主体的に進路目標を設定して、その実現に向けて粘り強く取り組む活動を推進します。 (3) 計画的なキャリア教育により、生徒一人ひとりが自己の在り方、生き方を考える機会を提供し、望ましい勤労観や職業観と積極的に進路選択する能力を育成します。

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら、よさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

3 指導の重点

①音楽の幅広い活動を通して、音や音楽への興味関心を高める。 ②音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 ③発声の仕方や各楽器の基本的な奏法を習得させる。 ④様々な音楽を演奏、鑑賞し、楽曲固有のよさや美しさを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景などの音楽的視野の拡充を図り、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み ・学習プリント などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み ・学習プリント ・実技発表（歌唱・器楽・創作作品） などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み ・学習プリント ・実技発表（歌唱・器楽・創作作品） などから総合的に評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	単元名 〈教材名〉	学習活動(指導内容) 〈主な領域〉	時間	評価方法
1 学期	オリエンテーション	音楽経験アンケートをもとに、自分にとっての音楽の存在を再認識するとともに、高校音楽への意欲を喚起する。	1	プリントの提出
	高校音楽を始めよう 〈歌唱〉「翼をください」 「負けないで」 「校歌」	親しみやすい曲を歌い合わせ高校音楽への意欲を喚起する。校歌の歌詞を音読し意味を理解する。校歌のリズム、旋律を学ぶ。	3	授業の取り組み (行動の観察)
	楽典①	楽譜を読むための基礎的な知識として、五線、加線、高音部記号、音名について学ぶ。	2	プリントの提出
	日本歌曲を歌おう 〈歌唱〉 「花」 「この道」	曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを学ぶ。 日本語の言葉の特性に関心を持ち、抑揚、アクセント、リズムを感じ取り、旋律との関わりを学ぶ。	2	授業の取り組み (行動の観察)
	楽典②	音符、休符、拍子とリズムについて学ぶ。	1	プリントの提出
	リズムで表現しよう 〈創作〉 アンサンブルを楽しもうⅠ	楽典①②で学んだリズムを正確に読み自ら反復練習をする。リズムの特徴や変化を互いに聴き、グループでアンサンブルする。音楽素材の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かして創作に挑戦し、グループでアンサンブルする。	6	創作レポート
	イタリア歌曲を歌おう 〈歌唱〉 「O sole mio」	イタリア語の言葉の特性と発音を学ぶ。歌詞の意味、旋律やリズムを理解する。曲の構成を考え、表情豊かに歌う。	4	授業の取り組み (行動の観察)
	声の魅力を味わおう 〈鑑賞〉 「Caro mio ben」	曲想や表現上の対効果と音楽の構造と関わりを感じ取り鑑賞する。	2	プリントの提出 鑑賞レポート
	1学期のまとめ	1学期のまとめとして、これまでの音楽学習を振り返る。歌唱の実技テストを行う。	1	実技テスト
2 学期	アンサンブルを楽しもうⅡ 〈器楽〉 「グリーン・スライダース」 「見上げてごらん夜の星を」	アルトリコーダの奏法（運指、タギング、アーティキュレーション）を学ぶ。曲にふさわしい奏法、他者との調和を意識して演奏する。音楽表現を創意工夫しながら、アンサンブルの楽しさを学ぶ。	10	プリントの提出 器楽演奏発表
	ドイツ歌曲を歌おう 〈歌唱〉 「野ばら」	ドイツ語の特徴を理解し発音に気をつけて表情豊かに歌う。	4	授業の取り組み（行動の観察）
	ミュージカルに触れよう 〈鑑賞〉 「サウンド・オブ・ミュージック」	代表的な作品を鑑賞して、ミュージカルの楽しさを味わう。物語と音楽との関わりから表現上の効果を考え感じ取る。	2	鑑賞レポート
	楽典③	音階と階名について学ぶ。	2	プリントの提出
	日本の伝統音楽と世界の諸民族の音楽 〈器楽〉 「さくら変奏曲」等 〈鑑賞〉 「佐渡おけさ」等	和楽器（箏）に触れ奏法を学び、音色の特徴や文化的・歴史的背景などを理解する。郷土の民謡と伝統音楽を鑑賞して、声や楽器の音色の特徴を感じ取る。 諸民族楽器（カリハ）に触れ奏法を学び演奏する。世界の諸民族音楽を鑑賞して、旋律や声や楽器の音色の特徴、歴史的・文化的背景などを学ぶ。	8	プリントの提出 鑑賞レポート
	オーケストラの魅力を味わおう 〈鑑賞〉 「交響曲第9番」 (ベートーヴェン)	オーケストラの楽器の音色や響きの特徴を理解する。様々な楽器が重なり合う表現上の効果としての美しさや壮大さを自ら感じ取る。	2	プリントの提出 鑑賞レポート
	2学期のまとめ 実技テスト	2学期のまとめとして、これまでの音楽学習を振り返る。歌唱の実技テスト、器楽アンサンブルの発表を行う。	2	実技テスト
3 学期	ミュージックハルの響きを味わおう 〈器楽〉 アンサンブルを楽しもうⅢ 「星に願いを」	ミュージックハルの奏法を学ぶ。響きを味わいながら、グループで協力して演奏し、一音一音の音の大切さを感じ取りアンサンブルを楽しむ。	10	器楽演奏発表
	楽典④	奏法上や強弱を示す記号と用語を学ぶ。	4	プリントの提出
	音楽Ⅰのまとめ 〈歌唱〉 〈器楽〉 〈鑑賞〉	1年間の音楽学習〈歌唱〉〈器楽〉〈創作〉〈鑑賞〉を振り返る。音楽Ⅰで学んだ歌曲、器楽を再び演奏することにより、音楽活動の喜びや楽しさを味わう。教材の中から選択した器楽アンサンブルを発表する。	4	音楽Ⅰまとめ レポート 器楽演奏発表

計 70 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

授業において、学習プリント、鑑賞レポートを提出してもらいます。

8 授業担当者からの一言

授業は、歌唱、器楽、創作、鑑賞などの様々な音楽活動を組み合わせて、ゆっくり進めていきます。受け身ではなく、自ら積極的に取り組むことを望みます。楽しみながら学習を深め、音楽の喜びを一緒に味わいましょう。

教科(科目)	美術 I	単位数	2 単位	学年(コース)	1 学年（芸術選択）
使用教科書	光村出版『美術 1』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ (1) 自ら考え、判断し、行動する力、生涯をととして主体的に学び続ける人材を育成します。 (2) 他者や周囲を尊重し、多様な人々と協調して社会に貢献する力を持つ人材を育成します。 (3) 豊かな感性を備え、社会の一員としてのルールやマナーを大切にする人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ (1) 生涯を通じて学ぶために、基礎的・基本的な知識・技能の習得などの確かな学力の育成に重点をおき、全ての教科・科目において基礎学力の確実な定着を図ります。 (2) 地域と連携しながら、多様な職業や進路について学び体験する機会を設定し、主体的に進路目標を設定して、その実現に向けて粘り強く取り組む活動を推進します。 (3) 計画的なキャリア教育により、生徒一人ひとりが自己の在り方、生き方を考える機会を提供し、望ましい勤労観や職業観と積極的に進路選択する能力を育成します。

2 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

3 指導の重点

〈絵画・彫刻〉感じ取ったこと、考えたことを自分の感性で創造的に表現できるようにする。 〈デザイン〉目的や機能を考え主題に沿った作品を美しく制作できるようにする。 〈映像メディア表現〉映像メディアの特性を踏まえた発想や構想ができるようにする。 〈鑑賞〉美術作品の良さや美しさ、生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深められるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を工夫し、表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を持って発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、課題に対する取り組み方や工夫の仕方、疑問に対する対処の仕方などから評価します。	以上の観点を踏まえ、何をどう表すのか、アイディアスケッチやドローイングなどの制作過程と完成作品を併せて評価します。	以上の観点を踏まえ、授業中の制作態度の観察、提出された課題作品などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	単元名 〈教材名〉	学習活動(指導内容) 〈主な領域〉	時間	評価方法
1 学 期	作家の生涯と作品 〈葛飾北斎〉	葛飾北斎の生涯や作品を鑑賞し、表現の豊かさや面白さを感じ取る。 教科書の中の作品を見ながら、好きな作品を見つけ、作者について調べてみる。(鑑賞)	2	プリント提出
	色の仕組みを学ぼう 〈色相環・色相表制作〉	三原色を用いて色の基本を学ぶ。さらに明清色、暗清色、濁色、明度や彩度の対比を学ぶ。(表現・色彩)	8	作品提出
	平面構成 〈ステンシル版画〉	画面を分割し、色を決める。(5色) 印刷工程を理解し、多色刷りの版を作成する。 ステンシル印刷して仕上げる。 (デザイン・版画)	12	作品提出
2 学 期	身近なものを描く 〈鉛筆デッサン・着彩〉	パネルの水張りを学ぶ。 鉛筆の削り方(カッター使用)を学ぶ。 遠近法(2点透視法)を理解し、正確な形を捉えられるようにする。 鉛筆のトーンで光と影を表し、質感の違いを意識して描けるようにする。 自然な色彩に仕上げられるように、絵の具の混色を工夫して着彩する。(表現・絵画)	14	作品提出
	生命感を表す 〈木彫りんご制作〉	りんごを観察、角度を変えてスケッチをし、形の特徴をとらえる。 立方体の6面に形を写し、ノコギリ、小刀等で面取りをし、形を近づけていく。 細部をやすり等で整え着彩をして仕上げる。 (表現・彫刻)	16	作品提出
3 学 期	スプーン的设计 〈木製スプーン制作〉	教科書に載っているスプーンの形を鑑賞し、実際のサンプルを手にしてみて、持ちやすさ、使いやすさなど、目的によるデザインの違いについて考えてみる。 目的とデザインを決め、木製のスプーンを作成する。 (鑑賞・デザイン・彫刻)	18	作品提出

計 70 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

それぞれの課題ごとに下描きやアイディアスケッチなど、作品の出来上がる過程も評価の対象になります。
課題提出の締め切り厳守。提出のないものは評価されません。

8 授業担当者からの一言

美術の授業を通して、作品作りの楽しさや、自然や生活の中にある美を感じ取る心を養ってもらいたいと思います。それぞれの感性で作品を創造し、表現することの楽しさを経験して、これからの人生を豊かに歩んでいけるよう学習します。

教科(科目)	書道 I	単位数	2 単位	学年(コース)	1 学年 (芸術選択)
使用教科書	光村図書『書 I』				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ (1) 自ら考え、判断し、行動する力、生涯をとおして主体的に学び続ける人材を育成します。 (2) 他者や周囲を尊重し、多様な人々と協調して社会に貢献する力を持つ人材を育成します。 (3) 豊かな感性を備え、社会の一員としてのルールやマナーを大切にする人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ (1) 生涯を通じて学ぶために、基礎的・基本的な知識・技能の習得などの確かな学力の育成に重点をおき、全ての教科・科目において基礎学力の確実な定着を図ります。 (2) 地域と連携しながら、多様な職業や進路について学び体験する機会を設定し、主体的に進路目標を設定して、その実現に向けて粘り強く取り組む活動を推進します。 (3) 計画的なキャリア教育により、生徒一人ひとりが自己の在り方、生き方を考える機会を提供し、望ましい勤労観や職業観と積極的に進路選択する能力を育成します。

2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
--

3 指導の重点

・「漢字の書」では、楷書及び行書を重点的に取り上げ、鑑賞と臨書の基本を習得させることを目指す。また、書風の多様性とその背景にある文化への関心を広げられるようにする。さらに、篆書、隸書、草書では、書体の特徴を捉えるようにする。 ・「仮名の書」では、古筆の特性を踏まえ、基礎、基本、構成を段階的かつ実践的に習得できるようにする。 ・「漢字仮名交じりの書」では、「漢字の書」「仮名の書」での学習を踏まえ、主体的に構想し、自己表現できるようにする。 ・年間の学習を通して、「書写」から「書道」への違いを理解し、基礎や表現力を養い、制作の楽しさや、達成感を持たせるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 - ワークシート - 提出作品 - 学習まとめプリント - 学習態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - ワークシート - 制作プリント - 提出作品 - 学習過程 - 学習態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 - 学習態度 - 提出作品 - 鑑賞カードの記入状況 などから、評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

学期	単元名 〈教材名〉	学習活動(指導内容) 〈主な領域〉	時間	評価方法
一学期 中間	・書道で学習すること ・書写から書道へ	書道の三分野、用具用材、臨書について ワークシート使用	4	ワークシート提出
	◎漢字の書 ・楷書 「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」	漢字の変遷と様々な書体。ワークシート使用 唐の四大家に学ぶ。楷書の基本 それぞれの古典の用筆、字形、特徴を学ぶ 向勢、背勢について	6	ワークシート提出 作品提出 授業の取組
一学期 期末	「顔氏家廟碑」 「雁塔聖教序」	顔法について 変化に富んだ多彩な用筆 鑑賞を深める 唐の四大家の楷書の用筆や特徴、印象などを ワークシートにまとめる	8	ワークシート提出 作品提出 授業の取組
	北魏の書 「牛橛造像記」 「鄭義下碑」	「龍門石窟」の書 方勢について 「摩崖」の書 円勢について 方勢、円勢の違いの鑑賞	2	
	・篆書 「泰山刻石」	篆書の特徴について 用筆法を学ぶ	2	作品提出 授業の取組
二学期 中間	・篆刻に挑戦しよう	篆書の学習を踏まえ篆刻へ 篆刻の種類、用具の説明、プリント使用 姓名印を制作する 陽刻、陰刻の違いを鑑賞し学ぶ	6	プリント提出
	・行書 「蘭亭序」	行書の成立・特徴 「蘭亭序」の背景、内容、書法の趣を捉える 王羲之について 多様な書きぶりを鑑賞	4	作品提出 授業の取組
	「風信帖」 日本で書かれた書	空海について 唐代の書法と合わせて鑑賞 用筆、字形について 三筆、三跡の書	2	
	・隷書 「曹全碑」	隷書の特徴を知ろう 字形、波磔などを鑑賞 用筆法を学ぶ	2	
二学期 期末	・草書「真草千字文」	草書の成立・特徴について	2	プリント提出 作品提出 授業の取組
	創作 古典を生かした創作	制作プリントを使用 好きな言葉、名言などを書く 表現技法の鑑賞	4	
	・刻字に挑戦しよう	刻字の種類 制作プリント使用 好きな文字を刻す 刻字の立体的な書表現 刻し方、色彩表現などを鑑賞	10	
学年 末	◎仮名の書 仮名の成立と種類 平仮名 「蓬萊切」 「高野切第三種」	万葉仮名 草仮名 女手 片仮名について 基本的な筆使いを押さえよう。ワークシート使用 平仮名と変体仮名の使い分けについて 「いろは」歌を書く。 字母について 古筆に見る仮名の表現技法 仮名の繊細さや流れるような美しさの鑑賞 連綿について 料紙に書く	8	ワークシート提出 作品提出 授業の取組
	◎漢字仮名交じりの書の学習	「漢字の書」と「仮名の書」を踏まえ書風、用具、構成など 工夫し創作。プリント使用。作品を仕上げ、皆で表現技法な どを鑑賞	6	プリント提出 作品提出 授業の取組
	生活の中の書	日常に生かせる書の制作 プリント使用 生活の中での書表現の効果を鑑賞を通して学ぶ	4	

計 70 時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・臨書作品、創作作品、篆刻、刻字などの提出
- ・各単元についてのワークシートの提出
- ・制作プリントの提出

8 授業担当者からの一言

書道Ⅰの学習では、「書写」から「書道」への違いなどを、実技や鑑賞など幅広い活動を通して学んでいきます。書風の多様性と、その背景にある文化への関心を広げ、鑑賞能力と表現力を養い、自己の作品制作に生かしていきます。表現の活動では、創造性を高め、工夫を重ね、達成感が持てる作品となるように、集中して取り組んでください。そして、手書きの文字の大切さを感じ、生涯にわたり書を愛好し、生活の中にも生かせるようにして欲しいと思います。